

令和8年度 東海市不登校対策の方針

1 基本方針

「教員は授業で勝負する」を合い言葉に、各学校の実情に応じた教育実践研究が推進されるよう支援することを通して、教員の授業力を向上させる。また、「一人を粗末にすると、教育はその光を失う」というスタンスに立ち、特別な支援が必要な子どもや、不登校傾向のある子どもへの組織的なケアをさらに充実させる。

- (1) 「分かる授業」「楽しい授業」「魅力ある授業」の実践により、児童生徒にとって学校が安心して過ごせる場になるよう、教員の授業力向上に努める。
- (2) 学校が児童生徒にとって「心の居場所」になるように組織的な対応に努める。そのために、児童生徒への自立援助を個々の状況に合わせて行えるよう、教職員一人一人が高いアンテナを張り、職員全体で児童生徒を見守り、早期発見につながるようにする。
- (3) 不登校の子どもたちが学びに向かうことができるよう、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育支援センター「ほっと東海」、また関係機関と学校が協働して、支援活動をさらに充実させる。

2 取組の重点

- (1) 学校としての組織的対応の充実

ア 不登校児童生徒の状況を正確に把握するとともに、当該児童生徒に関する記録を累積していくようにする。また、その記録をスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育支援センター「ほっと東海」や関係機関の支援活動に生かせるようにする。また、担任だけで支援や対応にあたるのではなく、複数で当該児童・保護者への対応や支援にあたり、その支援や対応を通して、緊密な関係を保つとともに、継続的、計画的な働きかけの充実を図る。また、長期的な欠席となった児童生徒について、欠席当初の理由が「いじめ」であった場合については、学校とともに当該児童生徒に対する今後の対応を協議するなど、早期対応や早期解決に向けて具体的な対応策を示していけるよう努める。

イ 家庭的要因を背景に不登校傾向にあると考えられる児童生徒とその家庭等に対し、スクールソーシャルワーカーが中心となり、関係機関と連携して課題の解決を図ることを目指す。また、スクールソーシャルワーカーの学校ごとの支援件数の経年変化を分析し、その結果から、スクールソーシャルワーカーの配置の見直しに生かしていくとともに、スクールソーシャルワーカーの更なる拡充を目指し、担当指導主事が学校に出向いて管理職や養護教諭と情報交換を行う。

ウ 校内教育支援センター等、別室支援に取り組んでいる学校を担当指導主事が巡回し、その取組状況の把握に努めるとともに、効果的な取組については「不登校対策担当者会」で紹介するなど、校内教育支援センターの必要性についても検討していく。

(2) 教育支援センターの整備

ア 教育支援センター「ほっと東海」の活動内容や訪問指導等を含めた学校等との連携の在り方について現状の振り返りを行い、不登校児童生徒の学習指導や自立支援活動の充実に努める。

イ 横須賀教室、上野公民館教室、平洲中学校教室を統括する教育相談員が各教室を定期巡回し、相互理解と協力体制づくりに務める。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも交えた情報交換・ケース検討会を開催することにより、個々の事例に適切に対応できるようにする。

ウ 教育相談員による相談活動・訪問指導、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる相談活動・親の会の開催等、不登校児童生徒のための地域サポートセンターとしての機能を充実させる。

エ 学校との連絡会開催など、教職員、保護者、地域に対して教育支援センターの役割、活動内容についての適切な理解が得られるようにする

オ 教育支援センター「ほっと東海」に入級等をしている児童生徒の通級回数や学習状況をまとめ、週報を通して学校への情報提供を継続していく。さらに、教育相談員が積極的に学校に連絡をとり、当該児童生徒の情報把握に努め、支援や対応の連携を図る。

(3) 子どもの自立と未来を語る会の開催

ア 校長会研究組織である進路指導部会と不登校対策担当者会の協力を得ながら、不登校生徒の自立に向けた進路選択の在り方について、保護者や生徒にガイダンスを行う。

イ 令和8年7月25日（土）東海市勤労センターで開催する。

(4) 青空教室の開催

ア 教育支援センターに通う児童生徒を含め、市内小中学校に通う不登校傾向の児童生徒を対象に、国立若狭湾青少年自然の家において2泊3日で開催する。

イ 引率には、東海市教育委員会指導主事と教育支援センター「ほっと東海」の教育相談員・教科指導員・サポーター等が当たる。

ウ 令和8年9月21日（月・祝）～23日（水・祝）の日程で開催する。

(5) その他

校長会担当研究組織「不登校対策担当者会」に研修資料等の提供に努める。